

中央大学史資料集第二集の発行にあたって

中央大学の創立百周年記念事業の一つとしておこなわれる「百年史」編纂事業については、この編纂事業の一環としてさきに発刊された『中央大学史資料集』第一集（一九八四年三月）においてその概略が紹介されておりますが、この第二集は、第一集に収録された資料の時期につづき、太平洋戦争勃発前後までの時期を扱っております。

大正九年、「大学令」による大学としての認可をえた中央大学は、更に発展する大学として、学内諸規則をはじめ、制度上の改善・整備に努力する一方、駿河台の地に移転して設備の拡大を図りました。そして昭和十年には、創立五十周年を盛大に祝うことができました。しかしまたこの時代は、のちの太平洋戦争へ向けての準備が進められていた時代でもありました。「教練」の重視にともなう「学則改正」などの資料の中に、あわただしい動きを見ることができません。

一昨年十一月、百年史編集委員会は、編纂事業の一つである『図説 中央大学 1889↓1985』を刊行しましたが、ここに発刊される『中央大学史資料集』第二集は第一集とならんで、今後における『資料編』、『通史』刊行のためのきわめて重要な基礎史料であると考えられるものであります。

なお、第二集では、表題を『中央大学史資料集』と改め、収録史料の所蔵を明らかにする副題として、「東京都公文書館所蔵 中央大学関係史料」を中表紙に掲げました。

一九八七年三月

専門委員会主査

高橋 清 四 郎